

「家がいいね」 第73号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2010. 6. 7

詩 子どもたちの遺言！

生まれたよ ぼく
やっとここにやってきた
まだ眼は開いてないけど
まだ耳も聞こえないけど
ぼくは知ってる



「ここがどんなにすばらしいところか
だから邪魔しないでください
ぼくが笑うのを ぼくが泣くのを
ぼくが誰かを好きになるのを
ぼくが幸せになるのを

いつかぼくが

「ここから出て行くときのために

いまからぼくは遺言する

山はいつまでも高くそびえていてほしい
海はいつまでも深くたたえていてほしい
空はいつまでも青く澄んでいてほしい
そして人はここにやってきた日のことを
忘れずにいてほしい

(谷川俊太郎・詩 田淵章三・写真)

ふとニッポン家の家計を思う。月給**38万円**、
へそくり**10万円**を見つけるが、借金**44万円**を
しつつ、**92万円**の生活を続けている。一切合切
の資産は**872万円**。どうするのか。(この**1万
円札**、実は子どもに借りる予定の**1兆円札**です)

いつまで客目線なの？

大阪大学学長で、臨床哲学者の鷲田清一さんは
「聴く力」という著作で有名。最近の世相に対し
て、新聞寄稿がある。メディアが報じる(編集され
た)情報や政治談議をそのまま反復し、もっと
ちゃんとやってもらわなければ困ると憤る人々が
多い。しかし、求められているのは、そうした政
治というサービスの消費者、つまりは「顧客」と
してのふるまいではなく、社会を担う、受け身で
ない「市民」としてのふるまいが必要だと。「ねえ、
国民の皆さん」と呼びかけられるだけの他人ごと
ではないし、「医療も「患者さま」では終われない。

やっぱり最期まで聴くチカラは残るんだ！

息を引き取るまで、「見たり喋ったり出来ないけど、聴いておられますよ」と医療者としては説明するが、その根拠に確信は無かった。NHKテレビで「聴覚」の仕組みを科学的に知り、ナルホド！と思った。弱いように見えて人の聴覚は意外に高性能で繊細。小さな音に対しては、その信号を増幅し、逆に大きな音に対しては、その信号を抑制するという、高性能な機械のような働きをする。視覚に比べて、聴覚は脳に伝わるまでのスピードが速く、危険回避にも役立つ。この速度の差は、視覚が「化学的」な反応で脳に伝わるのに対し、聴覚は「機械的」な簡単な仕組みで脳に伝わるためだとの事。そうか、聴く力は呼吸筋の機械的な仕組みと同じようなんだと、「ここまでは納得した。(さらにチベットでは死者の耳に語り届け、死後の世界を導く御経があるのだと言われる)

縁(えにし)の家、開設しました

「できない」となげくより、「したい」を支えたい
デイサービスも可能な広さですが、「普通の家」
として利用して行きたいと思っています。ちよつ
と訪れて、「相談したい」「愚痴を言いたい」「休
みしたい」「調べ物をしたい」などのキッカケが、
つかめればいいと思います。各種の患者会・家族
会の集まりの場に、ボランティアなどの研修講座
の会場に利用できればとも考えています。実際に
御覧になってみてください。「これも、縁ですわ」

臨時外来休診のお願い

7月 9日(金)
10日(土)
16日(金)
31日(土)

よろしく、お願いします。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp

<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>